

古事記編纂1300年を思う

-----出雲路の探訪記-----

日本先史古代研究会会員 濱手英之

古事記編纂1300年を迎えた平成24年は主にゆかりのある各地で様々な催しが開催される。現存する歴史書で日本最古といわれる古事記についてのイベントが多く行われるということで、歴史好きの私は楽しみであり、この機会にもっと歴史を学び直そうと、わくわくしている。

古事記にゆかりの地は多くある。ざっとあげても島根、宮崎、淡路、高志、吉備等古代の人たちの活動範囲の広さに感動する。その中でも出雲は国譲りの件もあり、特に上巻では半分近くが出雲の話ではないだろうか。記録に残る古代日本の代表といっても良い場所といえるかもしれない。

そんなこともあり、先日出雲に出かけたとき、島根半島の日本海側に行ってみた。初めて訪れたのであるが、自然が良く残り、大変美しいところであった。美保関灯台や美保神社の方を周ってから日本海側に出て西に向かった。美保関灯台からは何とか隠岐の島が、見えたような見えないような感じ。再チャレンジするか、実際に隠岐島には行ってみたいものだ。天気が良ければ50kmほど離れた島もよく見えるらしい。近くには恵比寿様が釣りをしたという小島もみえ、海の色のもっと美しい特筆ものである。島根半島は、東と西、また北と南で隆起、沈降のしかたが違いうらしいが、北面はリアス式海岸が続き特に美しい。

出雲国風土記の国引き神話でも各国から余った土地を引いてきたそうだが、地質的にも三つのプレートで構成されていると地元の方に伺った。

そのまま西に向かい島根原発の敷地内？を通る県道37号線？も通過した。島根原発と県道は柵で遮られてはいるが、沢山の監視カメラがあり、なんだかいやな感じだ。きれいな施設で、清潔感があるのは良い。手持ちの線量計も問題があるほどは反応しなかった。一つ気になったのは、地層である。水平に近い地層もたくさん見受けられるが、明らかに傾いた地層も何か所かある。20度前後は傾いているようだ。地層が場所によって傾きが違うのである。どうやらプレートのぶつかりあう境界ということらしい。いつの時代に、なぜ、どうして、どうなって何回でこうなったかは知らないが、大きな地殻変動がないことを祈る。

そして、佐太神社に初めて参拝する。こちらは延喜式の出雲の国の二宮と称され、出雲三大社の一つである。正殿、北殿、南殿に12柱の神が祭られている。美しい社殿である。こちらの伝承には中世にイザナギノミコトの陵墓を遷したとあるらしい。古事記等によれば、「イザナミノミコトは出雲国と伯伎国(伯耆国)との堺との比婆山に葬りき」となっている。そして、伝承によると、中世に比婆山の神陵をこちらに遷し祭ったと伝え、旧暦10月には母神であるイザナミをしのんで八百万の神々がここにお集まりになったらしい。

ということで、神社裏の小道をしばらく上り、磐座にお参りすることができた。国を生んだ神の陵墓は大きなものではなかったが、大変うれしい経験であった。是非これを期に子宝に恵まれないものである。古代の方達の思いを想像しながら帰途についた。